

第36号

さくらしま

2022



鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕
医局から見える桜島

目

次

巻頭言	1
会長挨拶	3
I. 同門会員業績・学会発表	5
II. 教室行事	
1. 共催の講演会	10
III. 同門会報告	11
IV. 奨学寄附金寄附者様ご芳名一覧	13
V. 地域医療報告	14
VI. 特殊外来通信	
難聴・耳鳴り・補聴器外来	16
VII. 病理集計	17
VIII. 手術実績	18
IX. 諸研究費	23
X. 業 績	
1. 著 書	25
2. 原 著	26
3. 総 説	28
4. その他	28
5. 国内学会発表	29
XI. 医局通信	
1. 新入局員紹介	34

2. 医局人事	35
3. 学会報告	
①第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	36
②第36回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会	36
③第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会	37
④第45回日本頭頸部癌学会	37
⑤第1回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会	37
⑥第34回日本口腔・咽頭科学会ならびに学術講演会	38
⑦第60回日本鼻科学会総会・学術講演会	39
⑧第72回日本気管食道科学会総会・学術講演会	39
4. 関連病院便り	
①鹿児島医療センター便り	40
②鹿児島市立病院便り	41
③鹿児島厚生連病院便り	41
④いまきいれ総合病院だより	42
⑤霧島市立医師会医療センター便り	42
⑥天辰病院だより	43
XII. 関連病院と診療日案内	44
XIII. 海外同門会名簿	47
XIV. 自治医大研修生	51
同門会会則	53
編集後記	55

巻 頭 言

山 下 勝

同門会の先生方におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より教室へのご支援、ご指導を賜り誠にありがとうございます。

2021（令和3）年は前年同様に新型コロナウイルスが猛威をふるいました。デルタ株による第5波流行の後に、オミクロン株による第6波が到来しました。その後派生型であるBA.2株への置換が進んでおり、今後デルタクロン株の流行の可能性について取り沙汰されております。変異株の性格により、感染部位や重症化、感染好発年齢、ワクチンの効果などについての解析も進められており、今後の対策に反映されることが期待されています。

このようにこれまでの我々の生活に変化を強いられるなか、東京オリンピック・パラリンピックの開催、メジャーリーグでの大谷翔平選手の活躍と希望や勇気をもたらえるニュースもありました。一方、2022年3月時点ではロシア・ウクライナ間の紛争、物価上昇、円安の進行と今後の生活に不安を生じ得る要素も出てきております。

2022年4月の診療報酬改定では、本体では0.43%のプラス改訂となりましたが、オンライン診療やリフィル処方、デジタルトランスフォーメーションについての態勢見直しがなされ、病院では2024年からの働き方改革を見据えた対応や入院期間のさらなる短縮が求められる内容となりました。また、診療所においても感染防止対策や外来機能分化と地域連携の取り組みが必要とされます。いずれにしましても今後は、病院、診療所を問わず、たえず変化し続けることにより社会ならびに患者さんのニーズにこたえていく必要があります。

鹿児島大学病院では、感染症の直接の院内への持ち込みを減らすべく、トリアージ施設が完成し稼働しております。また、A棟（外来診療棟）の建設も順調に行われ、7階の教室横から見える美しい桜島の景観を大きなクレーンが遮っております。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の診療において、2021年度は一時、入院患者数の制限、手術制限を行わなくてはならない結果となりました。しかしながら、診療実績は延べ外来患者数、入院患者数、診療報酬稼働額のいずれも過去5年を上回り、手術件数は2020年度に続く件数となりました。

学会の参加についても、開催直前の新型コロナウイルスの蔓延状況に振り回される結果となりました。まだまだオンラインやハイブリッド開催が主流であり、気軽に参加、聴講ができる反面、Face to Faceでしか味わえない楽しみが得られない不完全燃焼感が残ることも事実です。後期研修医の先生が、「学会はオンラインでPCの前で行うも

の」と思い込んでしまわないかと本当に心配になってきました。

現在、私は医学部生の臨床実習の責任者をしております。2021年度は院内、院外での実習において、新型コロナウイルスの感染状況により、突然の中止・再開と状況が刻一刻と変化し、教員も学生も代替実習をどうするか、など慌てふためくとても大変な1年となりました。当面このような状況が続くと予想されますが、教育の質の低下を招かないよう工夫をしていく必要がありますし、現状の臨床実習体制では1グループが当科を回る2週間の間に学生たちのハートをつかまなければ、永遠の別れとなってしまいます。教室員には「学生さん」ではなく、それぞれの名前と呼ぶことと熱い指導を行うことをお願いしています。後期研修医は2021年度に峠早紀子先生が、2022年度には下藺知己先生、田中智規先生が教室の新しい仲間となりました。また、2022年1月からは助教として吉松誠芳先生に着任いただきました。同門会の先生方には温かいご指導をお願い申し上げます。大学院の方には2021年度に宮本佑美先生が、2022年度には松元隼人先生が社会人大学院生として入学してくれました。今後の研究推進の大きな原動力となっていただけるものと期待しております。現在のテーマは免疫アレルギーと喉頭気管再生です。現在の資源と設備の環境から、当面はげっ歯類を中心としての研究を行っていく予定です。

研究費の取得については年々厳しくなる傾向が継続しております。企業の業績不振や方針の転換から従来の基金が減額となったり、なくなったりしてきています。さらに公的競争的資金においてもルールの変更などもあり、競争率が上昇しております。そのような時世の中、同門会員の先生方をはじめ、会員以外の先生方や病院等からも多くのご援助を賜り、誠に感謝いたしております。様々な環境がすぐに好転するとは限りませんが、教室員が一丸となって、大きく飛躍したいと思っております。

次の世代の鹿児島耳鼻咽喉科診療を守るためにも、引き続き温かいご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。

Charles Robert Darwin (1809-1882) が「種の起源」で言った言わないと諸説ありますが、“It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change.” 今後の時代を「生き残るには環境変化への柔軟な適応」が必要と考えております。

最後になりましたが、同門会の先生方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

会長挨拶

森 山 一 郎

「WHO は今度のかぜが，1918年～19年の『スペインかぜ』以来の世界的大流行（パンデミック）になるであろうという事を，全世界にむかって正式に警告した。1957年のA2型による通称『アジアかぜ』の大流行よりも，スペインかぜに似た，あるいはそれ以上の重大な事態を引き起こすであろうと予想される。事態の重大さについて，一般の啓発に力をそそぎ，国民大衆に防疫に協力をもとめられたい。人類に対する重大な挑戦となるかもしれないのである」（「復活の日」小松左京著1964年から一部省略して引用）

これは，半世紀前の著書だが，新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなっている現在の状況に非常によく似ている。また，「ジュラシックパーク」などの著者として知られるマイケル・クライトンの小説「アンドロメタ病原体」も同じような内容の話である。こちらは1969年の出版で，小松左京の方が5年早いので，或いはクライトンが「復活の日」を参考にした可能性もある。まだお読みになっていない先生方は，是非暇なときに両者を比較しながら，また covid-19 を意識しながら読まれると興味深く感じられよう。

人間というのは愚かなもので，危険が必ずいつか襲ってくると分かっているにもかかわらず，自分だけは大丈夫だと思いがちである。極端なペシミストにならなくてもよいが，常に災害・人災と隣り合わせで生きていることを念頭に置いて（新型コロナしかり，ウクライナ情勢しかり），各自が納得のいく充実した一日一日を送ることが，不穏な情勢に動じないために肝要である。



さて，本年1月15日に恒例の同門会総会が開催された。会則の一部見直しを行い，前会長の山本誠先生を名誉会長に理事会で推し，総会で承認いただいた。同門会をここまで発展させた山本誠先生のご尽力に少しは報いることができたのではないだろうか。また，総会后に地方部会との共催で学術講演会が行われた。東

北大学教授の香取幸夫先生から「嚥下障害の治療：誤嚥の検出と予防」の特別講演を賜った。とても啓発的な内容であったことは言うに及ばない。その後，写真にみられる通り，山本誠名誉会長，山下勝教授，幹事の大堀純一郎先生，それに小生の5人での懇

親会が、3面をアクリル板で囲った席で、3密を避けて行われた。口角泡を飛ばす議論も今は昔で、ポストコロナの時世では、もうそのような熱い討論は対面ではなくなっていくのかもしれない。余談ではあるが、まさに当日の1月15日は、香取先生の誕生日とすることで、城山ホテルの計らいで、サプライズの誕生日ケーキの差し入れがあった。

「復活の日」も「アンドロメダ病原体」も半世紀以上前に書かれた小説であるが、見事に未来（50年後の現在）を予言している。両小説とも最後は、僥倖による救いで終わるが、そこまでの過程で人類の英知を集結させ、未知の病原体との格闘を描いている。驕ることのない、そうした人類の真摯な姿が、少しだけ報いられた終局である。現在直面している諸問題に対しても、現代人のわれわれは努力を惜しまず、解決策を探求していくべきだろう。もしかすると、小松左京の「日本沈没」も現実味を帯びてくるかもしれないし、ウクライナ情勢から第三次世界大戦へと悪化の道をたどるかも知れない。本原稿を書いているのは3月下旬だが、「さくらじま」が出版される頃には、新型コロナ感染もウクライナ問題も沈静化していることを願って已まない。

鹿児島大学名誉教授 黒野 祐一

<著 書>

黒野祐一：副鼻腔炎. 感染症最新の治療 2022-2024. 藤田次郎, 館田一博, 大毛宏喜 (編), 南江堂, 2022, pp 102-103.

<総 説>

黒野祐一：日常臨床に活かそう！AMR 対策 -AMR とはなにか. JOHNS 2021; 37: 777-779.

黒野祐一：[感染症トピックス] 耳鼻咽喉科感染症診療の現状と未来～新型コロナウイルス感染症を経験して～. INFECTION FRONT WEB 版 Vol 54, 2022.

<原著論文>

Hyo Y, Fujieda S, Matsubara A, Takeuchi K, Ohki M, Shimizu T, Kurono Y. Survey of nebulizer therapy for nasal inflammatory diseases in Japan before and during the COVID-19 pandemic. Auris Nasus Larynx. 2021 Nov 22; S0385-8146(21)00269-8. doi: 10.1016/j.anl.2021.11.007. Online ahead of print.

Kurono Y. The mucosal immune system of the upper respiratory tract and recent progress in mucosal vaccines. Auris Nasus Larynx. 2022; 49: 1-10.

兵 行義, 黒野祐一, 清水猛史, 竹内万彦, 森下裕之, 高畑淳子, 竹野幸夫, 橋口一弘, 平野康次郎, 森 繁人, 大木幹文, 吉山友二, 高野 頌, 原測保明：COVID-19 流行下における鼻ネブライザー療法実態調査. 日耳鼻会報 2022; 125(2): 159-166.

黒野祐一, 井内寛之, 山下 勝：含嗽の細菌付着上皮細胞の除去作用に関する研究. 日耳鼻会報 2022; 125(3): 279-284.

<学 会>

令和4年1月15日

令和4年同門会・地方部会合同学術講演会 一般演題

「水道水による含嗽の効果に関する考察」

黒野祐一，片平聖子

<講演>

令和3年6月3日

第128回耳鼻咽喉宮城県地方部会耳鼻咽喉科臨床セミナー

「上気道感染症の治療に役立つ抗菌薬の基礎知識」

かごしま空港ホテル2階 梅の間より WEB 配信 杏林製薬(株)

令和3年9月9日

九州耳鼻咽喉科感染症 WEB セミナー

「エビデンスに基づく上気道感染症の抗菌薬治療」

かごしま空港ホテル2階 梅の間より WEB 配信 杏林製薬(株)

令和3年11月6日

北耳会 全道合同地区研修会 学術講演

「エビデンスに基づく上気道感染症の抗菌薬治療」

かごしま空港ホテル2階 梅の間より WEB 配信 杏林製薬(株)

令和3年11月14日

第10回顎顔面口腔育成研究会 (JACG) 学術大会

「歯科診療に役立つ耳鼻咽喉科の知識」

ヨシダ(株)鹿児島営業所より WEB 配信

令和3年11月15日

杏林 WEB サロン

「エビデンスに基づく上気道感染症の抗菌薬治療」

杏林製薬(株)鹿児島営業所より WEB 配信 杏林製薬(株)

令和3年11月25日

埼玉感染症講演会

「エビデンスに基づく上気道感染症の抗菌薬治療」

かごしま空港ホテル2階 梅の間より WEB 配信 杏林製薬(株)

令和3年12月4日

第25回大分アレルギー講習会

「アレルギー性鼻炎の診療における抗ヒスタミン薬の位置づけ
～治療効果を高めるための工夫～」

全労災ソレイユ会館より WEB 配信 大鵬製薬(株)

令和3年12月16日

愛媛県感染症 WEB 講演会

「エビデンスに基づく上気道感染症の抗菌薬治療」

かごしま空港ホテル2階 梅の間より WEB 配信 杏林製薬(株)

令和4年3月8日

Kyorin 感染症 WEB セミナー in 北九州

～ AMR 対策時代の抗菌薬の使い方～

「エビデンスに基づく上気道感染症の抗菌薬治療」

杏林製薬(株)鹿児島営業所より WEB 配信 杏林製薬(株)

令和4年3月19日

第58回沖縄県耳鼻咽喉科医会 WEB 講演会

「エビデンスに基づく上気道感染症の抗菌薬治療」

杏林製薬(株)鹿児島営業所より WEB 配信 杏林製薬(株)

せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

〈原著論文〉

内菌明裕：当院で検出された3大起炎菌の薬剤感受性の過去10年間の推移について. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌 1：61-69, 2021.

〈症例報告〉

内菌明裕：漢方 すっきり方程式60 Case 鼻閉が改善しなくなったアレルギー性鼻炎の女性. 日本医事新報 5017：14, 2022.

〈学 会〉

令和3年7月3日

第33回 疼痛漢方研究会 一般演題

「舌痛症における東洋学的背景と鉄動態についての一考察」

東京都 ハイブリッド開催

令和3年8月15日

第71回 日本東洋医学会学術総会 一般演題

「半夏厚朴湯処方例における鉄代謝異常の検討」

仙台市 オンライン開催

令和4年2月3日

第121回 鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 一般演題

「アレルギー性鼻炎に対する当院での取り組み」

鹿児島市 ハイブリッド開催

令和4年2月20日

2021年度日本東洋医学会鹿児島県地方部会

テーマ別検討会 パネラーとして口演

「COVID19に閉じ込められた頭頸部領域の不定愁訴と漢方」

鹿児島市 ハイブリッド開催

令和4年2月13日

日本プライマリ・ケア連合学会 鹿児島大会

シンポジウム「プライマリ・ケア領域における漢方と多職種による包括的ケア」

座長並びにシンポジスト

「耳鼻咽喉科頭頸部領域のプライマリ・ケアにおける漢方薬の有用性について」

鹿児島市 オンライン開催

〈講演会〉

令和3年6月9日

令和3年度第1回 漢方・薬草に関する研修会（鹿児島県薬剤師会主催） 講演

「頭頸部領域の不定愁訴に対する漢方療法」

鹿児島市 ハイブリッド開催

令和3年7月10日

令和3年度第1回日本東洋医学会福岡県部会 講演

「耳鼻咽喉科領域の不定愁訴と漢方」

福岡市 ハイブリッド開催

COVID19のパンデミックによる影響が2年を超え、世の中のシステムが大きく変化しました。2019年には、学会へのトライを半ば諦める様な気持ちになっていましたが、わざわざ出かけていなくても話をする機会が得られるということもあって、またぞろ、虫が騒ぎ出して、オファーはすべて断らないといった意気込みで、駆け抜けた2021年でした。

この間に日本のGDPは下がり続け、デフレからはいつまで経っても抜け出せず、今や我が国は発展途上国なみに落ちぶれてきています。

総理が代わるときに淡い期待もしていましたが、やはり、緊縮財政を転換する様子が見られず、沈む一方です。

ロシアがついにウクライナへ侵攻しました。北京冬季オリンピックの初日に、プーチンと習近平がいったいどんな会談をしたのか、気になっていましたが、オリンピックの閉幕を待って、用意周到に計画された侵攻だったのだらうと思われまふ。ものの数日で首都キエフを陥落させそうな勢いがそれを顕しています。

アメリカをはじめとするNATO諸国は、協定上、結局軍事的行動を取ることができず経済制裁にとどまるでしょうから、中国にとっては、パラリンピック終了後に台湾へ侵攻する良いシナリオになったのではないのでしょうか？軍事同盟を結んでいない限り、アメリカが軍を派遣してまで阻止行動には出ないだらうというもくろみです。

我が国は、おそらくCOVID19だけではなく尖閣諸島をはじめとする中国からの圧力にも対抗していかなければ成らなくなる懸念があります。

この機に乗じて弾道弾を試射し続ける北朝鮮の動きも気になります。

平時には、思いもよらないことが、今ウクライナの民衆に起こっています。原発の立地がある本市は、決して対岸の火事などと思っではいけない。

そんな危機感を抱きつつ、日々変化する社会情勢に何とかついて行こうとする今日の頃です。

1. 共催の講演会

第121回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 令和4年2月3日（ハイブリッド開催）

特別講演：「COVID-19感染症下のアレルギー性鼻炎のマネジメント」

東北医科薬科大学 耳鼻咽喉科学

教授 太田 信男 先生

令和4年 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 日耳鼻鹿児島県地方部会合同学術講演会

令和4年の同門会は、1月15日に城山ホテル鹿児島とWEBのハイブリッド形式で開催された。昨年はZoomによるオンラインのみの同門会を開催したが、その後1年が経過し、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いているためハイブリッドでの開催とした。現地参加が24名、オンライン参加が40名とオンライン参加の先生方が多かった。コロナ禍のため中止となった同門会の事業も多く、例年行われていた懇親会も開催されなかった。本年の新入会員として、後期研修医の峠早紀子先生と、京都大学耳鼻咽喉科から移籍された吉松誠芳先生を迎え入れた。同門会にとって新入会員を迎え入れられて非常に喜ばしいことであった。本年は総会後に現地参加の先生方のみではあるが、写真撮影を行った。

学術講演会では、一般演題 6演題と特別講演として東北大学の香取幸夫先生に「嚥下障害の治療：誤嚥の検出と予防」と題して講演をいただいた。一般演題では県内の関連病院からの症例報告や、大学の治療成績の報告があり、退官後も研究を継続されている黒野祐一名誉教授の発表があった。特別講演では、嚥下障害、フレイル、サルコペニアの悪循環をいかに断ち切るかについてわかりやすく講演いただいた。今後増加するであろう嚥下障害患者に向け耳鼻咽喉科医としていかに立ち向かうかを奮い立たされる講演であった。演者、座長は原則現地参加としたため、久しぶりに顔をあわせて質疑応答することができた。

同門会の後、2月から3月にかけて新型コロナの第6波が猛威を振るった。来年には、同門会員の皆様と顔をあわせた総会が開催できることを期待する。

学術講演会演題

一般演題

座長

川島 雅樹 鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

積山 幸祐 いまきいれ総合病院 頭頸部・耳鼻咽喉科

1. ANCA 関連血管炎性中耳炎 (OMAAV) の2例

徳重 豪士, 積山 幸祐, 花牟禮 豊, 福田 勝則, 昇 卓夫

いまきいれ総合病院 頭頸部・耳鼻咽喉科

2. 喉頭原発クリプトコッカス症の1例
安藤 由実, 伊東 小都子, 西元 謙吾, 松崎 勉
鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科

3. 胸部症状を伴わない間欠的な咽喉頭異常感で発見された冠動脈疾患例
牧瀬 高穂
鹿児島厚生連病院 耳鼻いんこう科

4. 当科における手術加療した中耳真珠腫新鮮例の検討
喜山 敏志, 大堀 純一郎, 山下 勝
鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

5. 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術をおこなった声門癌の検討
松崎 尚寛, 大堀 純一郎, 山下 勝
鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

6. 水道水による含嗽の効果に関する考察
黒野 祐一¹, 片平 聖子²
¹鹿児島大学客員研究員, ²鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

特別講演

「嚥下障害の治療：誤嚥の検出と予防」

司会 鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野 山下 勝

演者 東北大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 香取 幸夫



令和4年 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 令和4年1月15日 於：城山ホテル鹿児島

(文責：大堀純一郎)

奨学寄附金寄附者様ご芳名一覧

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室への多数のご寄附を賜りまして、心よりお礼申し上げます。お受けいたしました寄附金は、教室の研究や後進の育成の為に有意義に活用させていただきます。

今後とも教室へのご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(敬称略，順不同)

【ご芳名のみ掲載希望の先生方】

井内 寛之	石川 勉	伊東 祐久	岩坪 哲治	岩元 正広
上野 員義	牛飼 雅人	内藺 明裕	江川 雅彦	大堀純一郎
小川 敬	久徳 貴之	黒野 祐一	河野もと子	鹿島 直子
川島 雅樹	鮫島 篤史	下麥 哲也	杉原 純次	鈴木 晴博
積山 幸祐	高木 茂	田中 紀充	谷本洋一郎	谷本ゆかり
田淵みな子	鶴丸 浩士	出口 浩二	西園 浩文	西元 謙吾
橋本 典子	花牟禮 豊	濱崎喜與志	原口 兼明	原田みずえ
福岩 達哉	松永 信也	森園 健介	森山 一郎	宮下 圭一
宮本 佑美	柳井谷 巧	山下 勝	山本 誠	吉福 孝介

【掲載を希望されない先生方】

11名

【対象地域】

阿久根市，志布志市，大崎町，西之表市，輝北地区，屋久島町，垂水市

【受診者数】

小学生 2,873人， 中学生 1,569人 合計4442

【対象疾患】

耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，アレルギー性鼻炎，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大の9疾患

【結果】

疾患別の有病率はアレルギー性鼻炎と耳垢栓塞が圧倒的に多い結果となった。(図1)
 学年別耳疾患有病率は耳垢栓塞が小学1年生に多く，学年を経るごとに減少を認めた。(図2)

学年別鼻疾患有病率はアレルギー性鼻炎が全学年で多い結果となった。(図3)

学年別扁桃疾患有病率は小学校低学年を中心に扁桃肥大が多く，慢性扁桃炎に学年間での差がない結果となった。(図4)

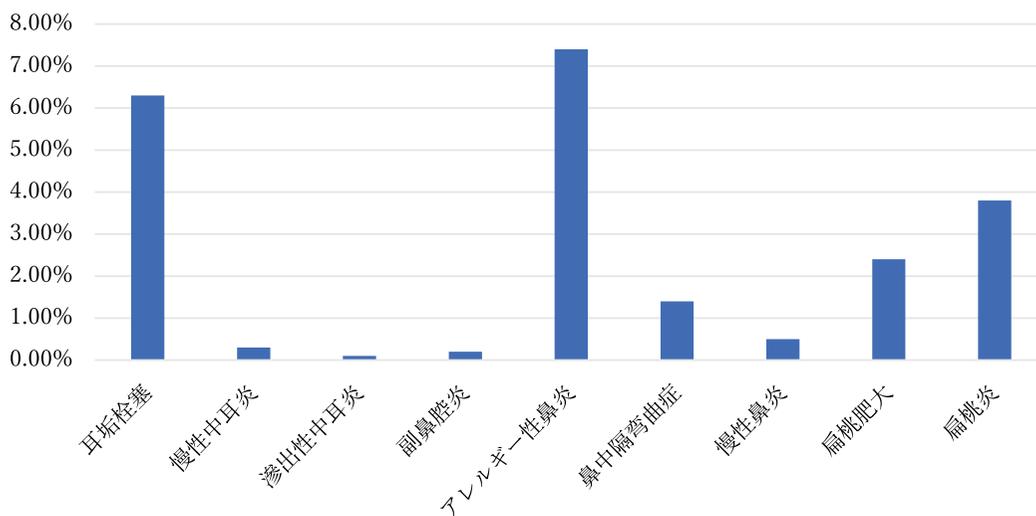


図1. 疾患別の有病率

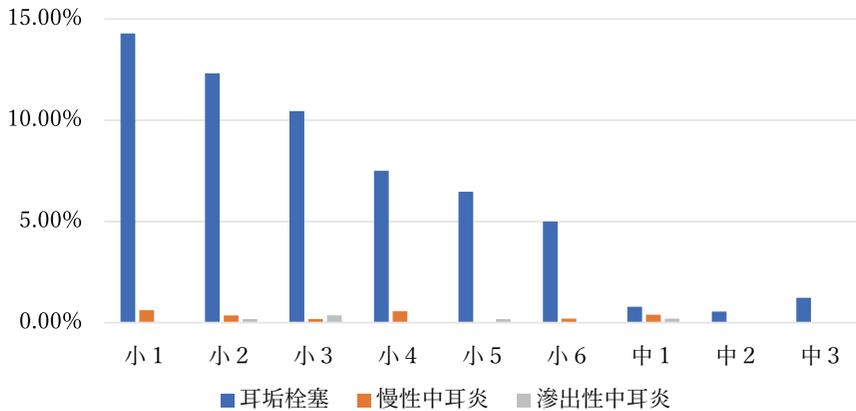


図2. 学年別耳疾患有病率

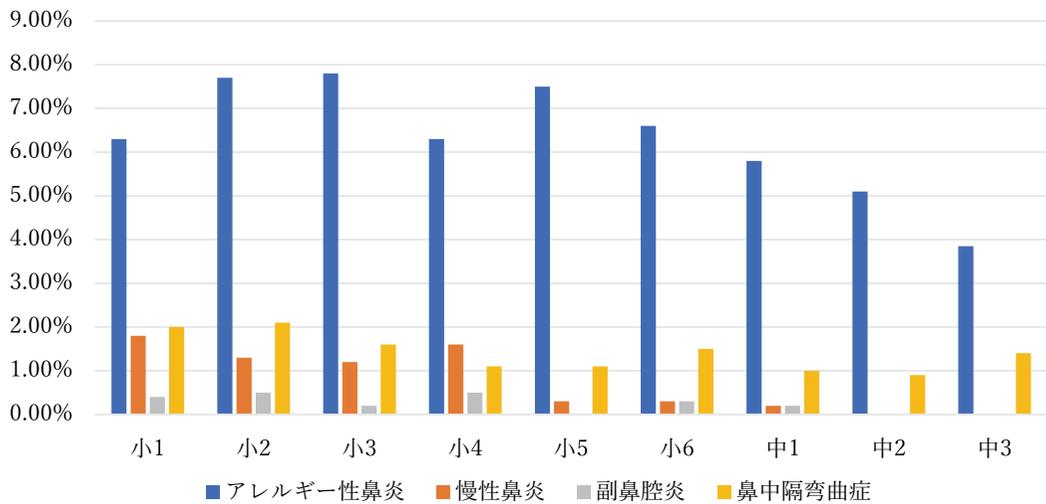


図3. 学年別鼻疾患有病率

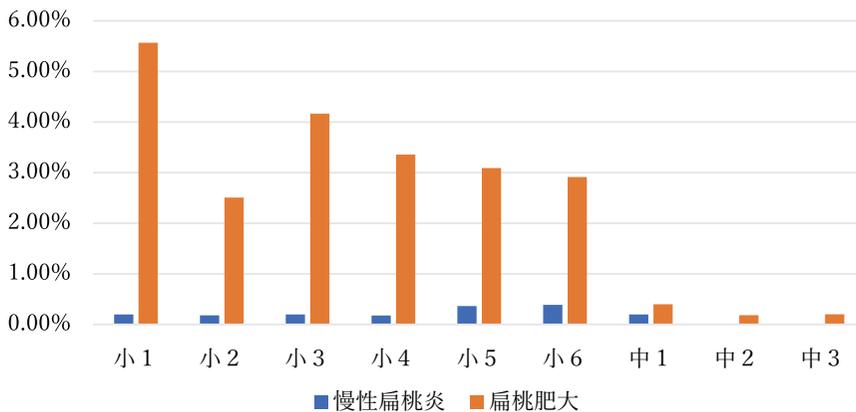


図4. 学年別扁桃疾患有病率

難聴・耳鳴り・補聴器外来

宮之原 郁 代

例年に引き続き、小児・成人難聴の精査、難聴の遺伝子診断、人工内耳候補者選定、術後の(リ)ハビリテーション、補聴器フィッティング、TRT療法、めまいの精査・リハビリ等をおこなっています。過去5年間の各種検査数について表1に示しました。

本年の傾向としては、前庭機能検査の件数は微増、補聴器フィッティングについては昨年と変化なし、耳鳴り外来は増加、難聴の遺伝学的検査についてはやや減少、ABR、COR件数は大きな変化は見られませんでした。コロナ禍との関連は不明ですが、耳鳴り患者の新患数は他疾患に比較するとやや増加した印象でしたので、TRT療法を選択する患者の増加はその影響が考えられます。

あらたな取り組みとしては、メニエール病の診断基準に造影MRIによる内リンパ水腫所見の項目が追記されて久しいところですが、今般、放射線科の尽力も頂き、当院でもMRIによる内リンパ水腫撮影が可能になりました。これによりメニエール病はもちろんですが、従来グリセロール試験では評価できなかった遅発性内リンパ水腫同側型も診断できる確率が高くなり、現在少しずつ症例を重ねているところです。今後も、現在の体制を維持しつつ、幅広い年齢層の聴覚障害、平衡障害に対応していけるよう研鑽していきたいと思えます。

表1

	ABR	補聴器外来	耳鳴り外来 (TRT療法)	難聴の 遺伝学的検査 (家系数)	難聴の 遺伝学的検査 (人)	前庭機能 検査	COR
2017年	73	29	13	5	11	42	17
2018年	77	36	6	8	22	67	27
2019年	92	31	5	6	11	60	26
2020年	91	27	5	12	19	39	37
2021年	95	28	14	4	7	46	39

(すべて新患数)

VII. 病理集計

病理集計	件数	
外来	368	
入院	474	
総施行件数	842	2021年1-12月

部位	悪性	件	良性	件
外耳・中耳	SCC	3	cholesteatoma	20
	Merkel cell carcinoma	1	schwannoma	1
	melanocyte	1		
鼻 / 副鼻腔	SCC	4	inverted papilloma	7
	DLBCL	3	schneiderian papilloma	3
	adenoid cystic carcinoma	3	hematoma	3
	malignant melanoma	2	hemangioma	1
	salivary duct carcinoma	1	schwannoma	1
	malignant lymphoma B-cell type	1		
口腔・舌	SCC	20	squamous cell papilloma	2
	adenoid cystic carcinoma	1		
上咽頭	SCC	3		
	DLBCL	2		
	non keratinizing nazopharyngeal carcinoma	1		
中咽頭	SCC	38	squamous papilloma	1
	DLBCL	3		
	mucoepidermoid carcinoma	1		
	ATL	1		
下咽頭	SCC	58	squamous papilloma	2
喉頭	SCC	43	laryngeal nodule	7
			squamous cell papilloma	2
			laryngeal cyst	1
			laryngeal polyp	1
耳下腺	mucoepidermoid carcinoma (high-grade)	1	warthin tumor	9
	carcinoma ex pleomorphic adenoma	1	pleomorphic adenoma	6
	epithelial-myoepithelial carcinoma	1	basal cell adenoma	3
	secretory carcinoma	1		
顎下腺			pleomorphic adenoma	3
			sialolith	3
小唾液腺			chronic sialadenitis with SS	4
甲状腺	papillary carcinoma	11	adenomatous goiter	5
	follicular carcinoma	3	lymphoepithelial cyst	1
	anaplastic carcinoma	2		
頸部	metastasis of SCC	7	lipoma	2
	DLBCL	3	thyroglossal duct cyst	2
	metastasis of carcinoma	2	branchial cyst	2
	metastasis of sarcoma	1	schwannoma	1
	follicular lymphoma	1	pilomatrichoma	1
	ATLL	1		
	small lymphocytic lymphoma	1		
	follicular lymphoma	1		

鹿児島医療センター

耳科手術	計63件
鼓室形成術	23
鼓膜チューブ挿入術	10
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	3
先天性耳瘻管摘出術	8
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	7
乳突削開術	12
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
鼻科手術	計286件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	12
鼻中隔矯正術	27
鼻甲介切除術	44
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	3
口腔咽喉頭手術	計375件
扁桃摘出術	240
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	48
口蓋垂・軟口蓋形成術	2
舌・口腔良性腫瘍摘出術	10
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	13
咽頭良性腫瘍摘出術	13
咽頭悪性腫瘍摘出術	10
喉頭微細手術	86
嚥下機能改善手術, 誤嚥防止手術, 音声機能改善手術	1
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0

頭頸部手術	計223件
頸部郭清術	28
頭頸部腫瘍摘出術	195
顎下腺良性腫瘍摘出術	7
顎下腺悪性腫瘍摘出術	2
耳下腺良性腫瘍摘出術	54
耳下腺悪性腫瘍摘出術	7
甲状腺良性腫瘍摘出術	23
バセドウ病手術	1
甲状腺悪性腫瘍摘出術	4
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	8
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	4
喉頭悪性腫瘍摘出術	7
リンパ節生検	33
頸部嚢胞摘出術	13
顎下腺摘出術	22
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	3
気管切開術	9

鹿児島市立病院

耳科手術	計59件
鼓室形成術	32
鼓膜チューブ挿入術	6
人工内耳手術	3
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	0
先天性耳瘻管摘出術	0
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	5
乳突削開術	12
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	1
鼻科手術	計80件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	62
鼻中隔矯正術	9
鼻甲介切除術	4
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	1
顎・顔面骨折整復術	0
その他の鼻科手術	4
口腔咽喉頭手術	計184件
扁桃摘出術	141
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	29
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	3
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	9
咽頭良性腫瘍摘出術	9
咽頭悪性腫瘍摘出術	6
その他の口腔咽喉頭手術	2
喉頭微細手術	9
嚥下機能改善手術, 誤嚥防止手術, 音声機能改善手術	5

喉頭形成術	3
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	2
頭頸部手術	計90件
頸部郭清術	0
頭頸部腫瘍摘出術	68
顎下腺良性腫瘍摘出術	1
顎下腺悪性腫瘍摘出術	1
耳下腺良性腫瘍摘出術	10
耳下腺悪性腫瘍摘出術	3
甲状腺良性腫瘍摘出術	16
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	9
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	6
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	2
喉頭悪性腫瘍摘出術	3
リンパ節生検	9
頸部嚢胞摘出術	3
顎下腺摘出術	5
その他の頭頸部手術	12
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	1
気管切開術	16

鹿兒島厚生連病院

耳科手術	計2件
鼓室形成術	0
鼓膜チューブ挿入術	2
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	0
先天性耳瘻管摘出術	0
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	0
乳突削開術	0
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
鼻科手術	計153件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	42
鼻中隔矯正術	25
鼻甲介切除術	44
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
その他の鼻科手術	
口腔咽喉頭手術	計55件
扁桃摘出術	40
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	0
口蓋垂・軟口蓋形成術	1
舌・口腔良性腫瘍摘出術	0
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	0
咽頭良性腫瘍摘出術	4
咽頭悪性腫瘍摘出術	0
喉頭微細手術	10
嚥下機能改善手術, 誤嚥防止手術, 音声機能改善手術	0
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0

頭頸部手術	計8件
頸部郭清術	0
頭頸部腫瘍摘出術	0
顎下腺良性腫瘍摘出術	3
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	3
耳下腺悪性腫瘍摘出術	0
甲状腺良性腫瘍摘出術	0
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	0
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	0
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	0
リンパ節生検	0
頸部嚢胞摘出術	0
顎下腺摘出術	1
その他の頭頸部手術	1
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	0
気管切開術	1

いまきいれ総合病院

耳科手術	計49件
鼓室形成術	6
鼓膜チューブ挿入術	31
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	3
先天性耳瘻管摘出術	5
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	1
乳突削開術	3
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
鼻科手術	計364件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	139
鼻中隔矯正術	64
鼻甲介切除術	161
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
口腔咽喉頭手術	計175件
扁桃摘出術	152
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	13
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	8
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	1
咽頭良性腫瘍摘出術	4
咽頭悪性腫瘍摘出術	0
喉頭微細手術	9
嚥下機能改善手術, 誤嚥防止手術, 音声機能改善手術	1
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0

頭頸部手術	計42件
頸部郭清術	5
頭頸部腫瘍摘出術	37
顎下腺良性腫瘍摘出術	2
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	10
耳下腺悪性腫瘍摘出術	0
甲状腺良性腫瘍摘出術	4
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	3
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	2
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	4
喉頭悪性腫瘍摘出術	1
リンパ節生検	5
頸部嚢胞摘出術	5
顎下腺摘出術	1
食道異物摘出術	1
気管異物摘出術	0
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	24
気管切開術	2

鹿兒島大学病院

耳科手術	計58件
鼓室形成術	21
鼓膜チューブ挿入術	14
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	2
先天性耳瘻管摘出術	5
外耳道形成術	3
鼓膜形成術	0
乳突削開術	6
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
外耳道腫瘍摘出術	7
鼻科手術	計297件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	152
鼻中隔矯正術	56
鼻甲介切除術	79
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	3
顎・顔面骨折整復術	4
鼻前庭嚢胞摘出術	3
口腔咽喉頭手術	計179件
扁桃摘出術	80
アデノイド切除術	14
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	53
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	4
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	3
咽頭良性腫瘍摘出術	2
咽頭悪性腫瘍摘出術	44
喉頭微細手術	26
嚥下機能改善, 誤嚥防止, 音声機能改善手術	6

喉頭形成術	3
喉頭截開術	0
頭頸部手術	計154件
頸部郭清術	44
頭頸部腫瘍摘出術	90
顎下腺良性腫瘍摘出術	6
顎下腺悪性腫瘍摘出術	2
耳下腺良性腫瘍摘出術	21
耳下腺悪性腫瘍摘出術	4
甲状腺良性腫瘍摘出術	5
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	6
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	10
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	5
喉頭悪性腫瘍摘出術	14
リンパ節生検	10
頸部良性腫瘍摘出術	7
顎下腺摘出術	5
舌下腺摘出術	1
頸部嚢胞摘出術	6
頸部膿瘍排膿術	2
気管孔閉鎖術	3
ボイスプロテーゼ挿入術	3
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	2
気管切開術	4

(令和4年3月現在)

< 文部科学省科学研究費 >

基盤研究 (C)

喉頭気管粘膜障害からの修復促進機序の解明

研究代表者 山下 勝

若手研究

細菌接着におけるホスホリルコリンの関与と新たな治療法の開発に関する研究

研究代表者 井内 寛之

若手研究

高齢者の肺炎球菌感染予防のためのホスホリルコリン経鼻追加ワクチンの開発

研究代表者 宮本 佑美

基盤研究 (C)

新規粘膜アジュバントを用いた広域スペクトラムワクチンの開発に関する研究

研究代表者 黒野 祐一

基盤研究 (C)

AMPK を介した抗酸化作用を有する新規機能性単糖による加齢黄斑変性の予防と治療

研究代表者 寺崎 寛人 研究分担者 山下 勝

< その他 >

大鵬薬品奨学寄附金

川島 雅樹

上気道感染とアレルギー性炎症の制御

田辺三菱製薬 医学・薬学研究への支援

川畠 雅樹

上気道ウイルス感染により引き起こされる上気道細菌性感染症とアレルギー性
炎症増悪の病態解明

1. 著 書

(1) 山下 勝

口腔・咽頭科学

口腔・咽頭・唾液腺の発生

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 第4版 2022年03月31日発刊 p.212-214. 医学書院.

大森孝一, 野中 学, 小島博己 (編).

(2) 山下 勝

口腔・咽頭科学

口腔・咽頭・唾液腺の解剖

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 第4版 2022年03月31日発刊 p.214-216. 医学書院.

大森孝一, 野中 学, 小島博己 (編).

(3) 山下 勝

口腔・咽頭科学

口腔・咽頭・唾液腺の生理

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 第4版 2022年03月31日発刊 p.216-218. 医学書院.

大森孝一, 野中 学, 小島博己 (編).

(4) 山下 勝

喉頭科学

反回神経麻痺

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 第4版 2022年03月31日発刊 p.334-339. 医学書院.

大森孝一, 野中 学, 小島博己 (編).

(5) 山下 勝

気管・食道学

症候

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 第4版 2022年03月31日発刊 p.359-360. 医学書院.

大森孝一, 野中 学, 小島博己 (編).

2. 原 著

- (1) 有本一華, 永野広海, 喜山敏志, 原田みずえ, 川畠雅樹, 大堀純一郎, 山下 勝
急性難聴から診断に至った多発性硬化症の1例
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 93(9): 759-764, 2021
- (2) 喜山敏志, 永野広海, 馬越瑞夫, 大堀純一郎, 山下 勝
上顎洞に発生した神経内分泌癌の1例
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 94(3): 271-275, 2022
- (3) Iuchi H, Ohori J, Kiyama S, Imuta N, Nishi J, Kurono Y, Yamashita M.
Effectiveness of antibacterial agents against cell-invading bacteria such as *Streptococcus pyogenes* and *Haemophilus influenzae*.
BMC Microbiol. 2021 May 14; 21(1): 148. doi: 10.1186/s12866-021-02217-y.PMID: 33990180
- (4) Iuchi H, Ohori J, Ando Y, Tokushige T, Haraguchi M, Yamashita M.
Utility of the High-Sensitivity Modified Glasgow Prognostic Scores for Oropharyngeal Carcinoma.
OTO Open. 2021 Sep; 21; 5(3): 2473974X211042302. doi: 10.1177/2473974X211042302.
eCollection 2021 Jul-Sep.
- (5) Iuchi H, Ohori J, Matsuzaki H, Kiyama S, Yamashita M.
Utility of the Modified and High-Sensitivity Modified Glasgow Prognostic Scores for Hypopharyngeal Squamous Cell Carcinoma.
OTO Open. 2021 Dec; 15; 5(4): 2473974X211067423. doi: 10.1177/2473974X211067423.
eCollection 2021 Oct-Dec.
- (6) Honda R, Ando Y, Fujii K, Iuchi H, Hrada M, Yamashita M, Kanekura T.
Primary laryngeal pemphigus vulgaris with severe epiglottitis.
J of Cutaneous Immunology and Allergy Sep. 2021. DOI: 10.1002/cia2.12210.
- (7) Kusafuka K, Yamashita M, Iwasaki T, Tsuchiya C, Kubota A, Hirata K, Murakami A, Muramatsu A, Arai K, Suzuki M.

Perioston Expression and Its Roles in Benign and Malignant Thyroid Nodules: an Immunohistochemical Study of 105 cases.

Diagn Pathol. 2021 Sep 25; 16(1): 86. doi: 10.1186/s13000-021-01146-8.

- (8) Kusafuka K, Yamashita M, Yamanaka S, Hirata K, Kubota A, Murakami A, Muramatsu A, Arai K, Suzuki M.

Hybrid Carcinoma of The Parotid Gland: A Report of Three Extremely Rare Cases with An Immunohistochemical Analysis and A Review of The Literature.

International Journal of Surgical Pathology. Sep. 2021. DOI: 10.1177/10668969211036942.

- (9) Tanji M, Mineharu Y, Kikuchi M, Nakagawa T, Sakamoto T, Yamashita M, Matsunaga M, Kuwata F, Kitada Y, Terada Y, Arakawa Y, Yoshida K, Kataoka H, Miyamoto S.

Intraoperative Cerebrospinal Fluid Leak Graded by Esposito Grade Is a Predictor for Diabetes Insipidus After Endoscopic Endonasal Pituitary Adenoma Resection.

World Neurosurg. 2021 Nov 27;S1878-8750(21)01802-7. doi: 10.1016/j.wneu.2021.11.090.

- (10) Kuwata F, Ohnishi H, Yamamoto N, Takezawa T, Yamashita M, Okuyama H, Hayashi Y, Yoshimatsu M, Kitada Y, Tada T, Kobayashi M, Omori K.

Transplantation of human iPS cell-derived airway cells on vitrigel membrane into rat nasal cavity.

Tissue Eng Part A. 2021 Nov 27. doi: 10.1089/ten. TEA.2021.0071. Online ahead of print.

- (11) Maeda H, Sasaki F, Kabayama M, Iwaya H, Komaki Y, Arima S, Tanoue S, Hashimoto S, Kanmura S, Miyashita K, Ohori J, Yamashita M, Ido A.

Efficacy of endoscopic ultrasonography in evaluating tumor thickness in patients with superficial pharyngeal carcinoma: A pilot study.

Auris Nasus Larynx. 2022 In press. <https://doi.org/10.1016/j.anl.2021.11.003>.

- (12) Yoshimura T, Higashi S, Yamada S, Noguchi H, Nomoto M, Suzuki H, Ishida T, Takayama H, Hirano Y, Yamashita M, Tanimoto A, Nakamura N.

PCP4/PEP19 and HER2 Are Novel Prognostic Markers in Mucoepidermoid Carcinoma of the Salivary Gland.

Cancers 2022, 14, 54. <https://doi.org/10.3390/cancers14010054>.

- (13) Okada T, Makimoto K, Yoshii R, Yoshimoto K, Moinuddin FM, Yamashita M, Arita K.
Dissecting aneurysm of the anterior inferior cerebellar artery in the internal auditory canal presenting with deafness without hemorrhage: A case report and literature review.
Surg Neurol Int. 2022 Mar 11;13:88.doi:10.25259/SNI_1220_2021.eCollection 2022.

3. 総 説

- (1) 永野広海
【鼻副鼻腔の希少疾患を極める】
骨および軟骨疾患 再発性多発軟骨炎（解説 / 特集）
JOHNS 37(2) : 165-168, 2021
- (2) 永野広海
特集 チャートでみる耳鼻咽喉科診療
症状から診断へ 鼻科領域 後鼻漏
JOHNS 37(9) : 943-947, 2021
- (3) 大堀純一郎
特集 ワクチン最前線
ワクチンの疾患予防と展望 小児肺炎球菌ワクチンの最前線
JOHNS 37(11) : 1429-1431, 2021
- (4) 大堀純一郎
知っておきたいみみ・はな・のどの感染症
－診断・治療の実際－
緊急の・難治の、忘れた頃の「のど」の感染症
MB ENTONI 266: 48-54, 2022

4. その他

- (1) 川島雅樹
特集 耳のトラブルにご用心
ていーたいむ 3月号

(2) 山下 勝

「頭頸部がん」の診断と治療 ～集学的治療で患者さんの QOL の維持を～：口腔がん，喉頭がん

朝日新聞 令和4年1月1日 企画広告

5. 国内学会発表

(1) 特別講演

鹿児島県耳鼻咽喉科医会学術講演会 令和3年6月17日（鹿児島市）

「好酸球性副鼻腔炎の治療戦略」

大堀純一郎

今村総合病院研修医臨床講義 令和3年7月17日（鹿児島市）

「耳鼻咽喉科について」

山下 勝

新生児聴覚スクリーニング等環境整備研修会 令和3年7月30日（鹿児島市）

「新生児聴覚検査の意義と早期支援について」

宮之原郁代

甲状腺癌診療連携の会 in 鹿児島（第一報） 令和3年9月17日（WEB開催）

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科医からみた甲状腺癌診療」

宮下圭一

耳鼻咽喉科領域 WEB セミナー（わかはな会） 令和3年9月29日（WEB開催）

「鹿児島大学耳鼻咽喉科教室の取り組みと耳鼻咽喉科領域の最新知見」

山下 勝

第117回日本小児科学会鹿児島地方会 令和3年10月17日（鹿児島市）

「小児の耳鼻咽喉科診療について」

山下 勝

いまきいれ総合病院研修医臨床講義 令和3年11月5日（鹿児島市）

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患ガイド」

山下 勝

令和3年医療相談（ハートピアかごしま） 令和3年11月6日（鹿児島市）

「好酸球性副鼻腔炎，病気とのつきあい方」

川島雅樹

第43回東京医科大学 医療連携耳鼻咽喉・頭頸部外科カンファレンス講習会

令和3年11月4日（WEB開催）

「喉頭疾患に対する外科的アプローチ」

山下 勝

日本耳鼻咽喉科学会岩手県地方部会 学術講演会 令和4年1月8日（盛岡市）

「喉頭癌・喉頭アレルギーへの対応を含めた，喉頭疾患治療における tips」

山下 勝

頭頸部外科医がみる甲状腺癌を考える in 鹿児島（第一報）

令和4年1月21日（WEB開催）

「当院におけるレンバチニブ投与例の検討」

宮下圭一

第10回鹿児島アレルギー講習会 令和4年2月12日（WEB開催）

「アレルギー性鼻炎の診断と治療」

田淵みな子

熊毛地区医師会学術講演会 令和4年2月25日（WEB開催）

「アレルギー性鼻炎の薬物療法と COVID-19」

牧瀬高穂

(2) 一般

第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 令和3年5月12日～15日（京都市）

「喉頭内腔からの手術」

山下 勝

「頭頸部癌における放射線治療および化学放射線療法後の突然死例の検討」

永野広海, 松崎尚寛, 伊東小都子, 松元隼人, 久徳貴之, 宮本佑美, 井内寛之,
馬越瑞夫, 川畠雅樹, 大堀純一郎, 山下 勝

「喉頭癌症例の臨床的検討」

川畠雅樹, 松元隼人, 山下 勝

「好酸球性副鼻腔炎の重症度分類と術前嗅覚障害の程度に関する検討」

松元隼人, 大堀純一郎, 川畠雅樹, 永野広海, 山下 勝

第36回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会 令和3年5月30日 (WEB開催)

「下咽頭癌症例における予後予測因子の検討」

松崎尚寛, 井内寛之, 山下 勝

「OK-432局所注入療法を行ったガン腫4例」

峠早紀子, 川畠雅樹, 宮下圭一, 山下 勝

第83回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会

令和3年6月26日～27日 (札幌市) (WEB開催)

「当科における上顎洞扁平上皮癌症例の検討」

井内寛之, 山下 勝

「6歳児の咬筋内血管腫に対し外科的治療を選択した症例」

安藤由実, 喜山敏志, 西元謙吾, 松崎 勉

「当科で経験した黄色肉芽腫性唾液腺炎の4例」

喜山敏志, 西元謙吾, 安藤由実, 松崎 勉

第45回日本頭頸部癌学会 令和3年6月17日～18日 (浦安市) (WEB開催)

「耳下腺低悪性度粘表皮癌の臨床経過についての検討」

川畠雅樹, 井内寛之, 山下 勝

「下咽頭癌症例における予後予測因子の検討」

井内寛之, 川畠雅樹, 山下 勝

第1回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会

令和3年6月30日～7月2日 (金沢市)

「ホスホリルコリン経鼻投与によるアレルギー性鼻炎抑制効果についての検討」

宮下圭一, 山下 勝

第34回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

令和3年9月2日～3日（大阪市）（WEB開催）

特別企画

「今から何を次からいかに

新任教授陣による日本口腔・咽頭科学会の進化・躍進に向けた考察」

新任のご挨拶ならびに本学会の繁栄を目指して

山下 勝

一般

「ESSと口腔粘膜骨膜弁の併用で口腔上顎洞瘻孔を閉鎖した一例」

宮本佑美, 山下 勝

「当科にて経験したガン腫症例について」

峠 早紀子, 川島雅樹, 山下 勝

第60回日本鼻科学会総会・学術講演会 令和3年9月23日～25日（大津市）

「当科で治療した鼻副鼻腔未分化癌の4例」

原口めぐみ, 川島雅樹, 永野広海, 山下 勝

第72回日本気管食道科学会 令和3年11月11日～12日（WEB開催）

「当院における永久気管孔狭窄症例の検討」

宮本佑美, 大堀純一郎, 山下 勝

令和4年鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会

日耳鼻鹿児島県地方部会合同学術講演会

令和4年1月15日 鹿児島市（ハイブリッド開催）

「ANCA関連血管炎性中耳炎（OMAAV）の2例」

徳重豪士, 積山幸祐, 花牟禮豊, 福田勝則, 昇 卓夫

「喉頭原発クリプトコッカス症の1例」

安藤由実, 伊東小都子, 西元謙吾, 松崎 勉

「胸部症状を伴わない間欠的な咽喉頭異常感で発見された冠動脈疾患例」

牧瀬高穂

「当科における手術加療した中耳真珠腫新鮮例の検討」

喜山敏志, 大堀純一郎, 山下 勝

「鏡視下喉頭悪性腫瘍手術をおこなった声門癌の検討」

松崎尚寛, 大堀純一郎, 山下 勝

「水道水による含嗽の効果に関する考察」

黒野祐一, 片平聖子

第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

令和4年3月3日～4日（大阪市）（ハイブリッド開催）

「副咽頭間隙腫瘍35例の臨床的検討」

吉松誠芳^{1,2}, 岩永 健², 藤村真太郎², 河合良隆², 水田匡信², 本田啓吾²,

岸本 曜², 末廣 篤², 菊池正弘², 山下 勝¹, 大森孝一²

1) 鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2) 京都大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

「舌根部粘表皮癌症例」

宮本佑美, 宮下圭一, 大堀純一郎, 山下 勝

「下咽頭梨状陥凹瘻の臨床検討」

松崎尚寛, 川島雅樹, 山下 勝

第34回日本喉頭科学会総会ならびに学術講演会

令和4年3月10日～11日（佐賀市）

「ヒト iPS 細胞由来間葉系幹細胞を用いたラット甲状軟骨再生」

吉松誠芳^{1,2}, 河合良隆², 樋渡 直³, 岸本 曜², 山下 勝¹, 大森孝一²

1) 鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2) 京都大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

3) 京都桂病院 耳鼻咽喉科

「特発性声門上狭窄に対して YAG レーザーを用いた加療を施行した一症例」

久徳貴之, 山下 勝

1. 新入局員紹介

下菌知己

この度、4月より入局させて頂くことになりました下菌知己と申します。

私は、宮崎西高校卒業後、鹿児島大学に入学しバスケットボール部に所属しておりました。働き出してからは、キャンプの沼にハマってしまい心の癒しを求め休みがあればキャンプに出かけようと考えています。卒業後は市立病院で2年間の初期研修を行い、耳鼻科医として働く父への憧れと、研修の際に感じた専門性の高さ・多種多様な手術への魅力から当科へ進むことを決めました。耳鼻科医の入り口に立てたばかりで、まだまだ不慣れなことや出来ない部分が多々あり先生方に助けて頂く場面ばかりの毎日ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

田中智規

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局させていただきました田中智規と申します。鹿児島市出身で鹿児島大学出身です。

耳鼻科には小さい頃から接することが多く、物心ついた頃から興味がありました。

4月から勤務し始めて、右も左も分からない未熟者で皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、日々努力いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

吉松誠芳

今年の1月より鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局いたしました吉松誠芳と申します。耳鼻科医としては現在10年目になり、京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科で大学院を卒業した後に、昨年まで医員として働いておりました。今回山下勝教授よりお誘いいただき、鹿児島大学で助教として働かせていただくことになりました。出身は佐賀県で、九州大学を卒業して以降、約11年関西で働いていましたので、久しぶりの九州となります。若輩者ではありますが、少しでも鹿児島県の耳鼻科医療と鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医局の繁栄に貢献できるように精一杯頑張りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

2. 医局人事（令和4年5月現在）

教授 山下 勝
 准教授 大堀純一郎
 講師 永野広海
 助教 宮下圭一，川島雅樹，田淵みな子，吉松誠芳
 医員 松元隼人，松崎尚寛，喜山敏志，安藤由実，徳重豪士，田中智規，
 下藺知己

医局長 川島雅樹
 外来医長 永野広海
 病棟医長 大堀純一郎

関連病院（令和4年5月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾，高木 実
鹿児島市立病院	馬越瑞夫，久徳貴之
いまきいれ総合病院	積山幸祐，峠早紀子
鹿児島厚生連病院	牧瀬高穂
霧島市立医師会医療センター	井内寛之，原口めぐみ
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
あまたつクリニック	宮本佑美

3. 学会報告

第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

川 島 雅 樹

第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会が5月12日から15日に京都の国立京都国際会館で開催されました。当科からは山下教授，永野先生，松元先生，私の4人が参加致しました。とは言いまでも，昨今の状況下でWebでの参加となりました。永野先生は「頭頸部癌における放射線治療および化学放射線療法後の突然死例の検討」，松元先生は「好酸球性副鼻腔炎の重症度分類と術前嗅覚障害の程度に関する検討」，私は「喉頭癌症例の臨床的検討」の演題名で発表しました。Web参加の便利さの恩恵を受ける一方で，学会で学んだことがエピソード記憶として残る機会が減ったことに寂しさを感じます。「どどこで開催された学会で，だれだれ先生があのようなことをおしゃっていたなあ。あの時の懇親会の後に皆で食べに行った何々がおしかったあ。」そのように思える機会が早くこないかと切に思います。

第36回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会

松 崎 尚 寛

2021年5月30日に第36回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会が開催されました。

当教室からは峠早紀子先生，私が発表しました。

峠先生は「OK-432局所注入療法を行ったガン種4例」，私は「下咽頭癌症例における予後予測因子の検討」という演題で発表いたしました。

今回はオンラインでの発表でした。

初めてのオンラインの発表に戸惑うこともありましたが，無事発表を終えることができました。

新型コロナウイルスが収束し，現地での学会参加ができるようになる日が来ることを願わずにはられない学会でした。

第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会

安藤由実

2021年6月26日・27日に第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術総会が札幌での現地講演とオンデマンド発表によるハイブリッド形式で開催されました。

当教室からは井内寛之先生，喜山敏志先生，私の3人が参加しました。井内先生は「当科における上顎洞扁平上皮癌症例の検討」，喜山先生は「当科で経験した黄色肉芽腫性唾液腺炎の4例」，私は「6歳児の咬筋内血管腫に対し外科的治療を選択した症例」という演題でそれぞれオンデマンド発表いたしました。配信期間が長く設けられ，興味のある講演をすべて拝聴できるという利点はあったものの，はじめての全国学会への参加にもかかわらず，学会特有の雰囲気を経験することができず残念な思いは拭えませんでした。今後の感染状況が落ち着くことを願うばかりです。

第45回日本頭頸部癌学会

井内寛之

2021年6月16日～18日に第45回日本頭頸部癌学会がハイブリッド形式で開催されました。当教室からは川島先生と私の2名が参加しました。川島先生は「耳下腺低悪性度粘表皮癌の臨床経過についての検討」，私は「下咽頭癌症例における予後予測因子の検討」という演題で発表しました。会場がグランドニッコー東京ベイ横浜だったので，ミッキーに会えるのを楽しみにしていましたが，コロナの影響で現地には行けずミッキーに会うことは叶いませんでした。新型コロナウイルスが収束し，以前のように現地参加できる学会が開けるような日が来ることを願っています。

第1回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 総会・学術講演会

宮下圭一

2021年6月30日(水)から7月2日(金)の3日間，金沢大学耳鼻咽喉科の吉崎智一先生主催の第1回耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会に参加させて頂きました。

金沢で，しかも日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会と日本耳鼻咽喉科感染症・エア

ロゾル学会が統合して一つになった記念すべき第1回目の開催でした。しかし残念ながらCOVID-19の蔓延によって、現地ではホテル日航金沢にて、感染拡大の防止に細心の注意を払って実施する方針となりましたが、鹿児島大学病院の感染症対策の規定もあり、今回は現地（オンサイト）での発表はあきらめ、オンラインでの参加としました。医局からは、私が参加させて頂き、7月1日(木)にポスター発表で「ホスホリルコリン経鼻投与によるアレルギー性鼻炎抑制効果についての検討」を報告させて頂きました。オンラインも手軽でいいですが、やっぱり学会の醍醐味は、現地で実際に参加して、顔をあわせて親睦を深めつつ、夜はおいしいものに舌鼓をうち、観光名所めぐったりすることではないかと思えます。1日も早くCOVID-19がコントロールされ、以前のように実際に現地で学会に参加できるような日がくることを期待しています。



第34回日本口腔・咽頭科学会ならびに学術講演会

峠 早紀子

2021年9月2日・3日に第34回日本口腔・咽頭科学会ならびに学術講演会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、大阪での現地開催とWEB開催とのハイブリッド形式での開催となりました。当教室からは宮本佑美先生と私の2人が参加しました。宮本先生は「ESSと口腔粘膜骨膜弁の併用で口腔上顎洞瘻孔を閉鎖した一例」、私は「当科にて経験したガン腫症例について」という演題でそれぞれWEB発表いたしました。

事前に録音まで済ませたスライドを当日流し、質疑応答は後日という形式でしたので、学会の雰囲気や発表の緊張感を感じることなく終了してしまいました。少しでも早いコロナの収束と、学会の現地参加ができるようになることを楽しみにしています。

第60回日本鼻科学会総会・学術講演会

原 口 めぐみ

今年は9月23日～25日にかけて滋賀医科大学の主催で行われました。COVID 19の猛威が一時落ち着いていた時期ではありましたが、現地とオンラインでのハイブリッド開催となり、演題名「当科で治療した鼻副鼻腔未分化癌の4例」をポスター発表形式で提出し、学会自体はオンラインでの参加を選択しました。入局直後に感染症が流行し、学会現地参加が出来ていない世代ですので、県外への学会参加に憧れが募るばかりですが、職場や自宅にいながら、他の先生方の講演やスライドを拝見できるのはとても新鮮に感じられました。参加させて頂き、有難うございました。

第72回日本気管食道科学会総会・学術講演会

宮 本 佑 美

2021年11月11日・12日に大分大学呼吸器・乳腺外科学講座の主催でWEB開催されました。当教室からは山下教授がワークショップ「気管食道科における再生医療」の座長を務められ、宮本が一般演題で「当院における永久気管孔狭窄症例の検討」を発表しました。

私は気管孔・ボイスプロテーシスのセクションでの発表であったため、永久気管孔狭窄症例の検討に加えて、ボイスプロテーシスで安定した発声を得られるための永久気管孔作成時の工夫についても、質疑応答を通して座長の先生方から御指導を頂くことができ、非常に勉強になりました。

現地開催の学会では、横並びの講演の聴講を諦めたり、頑張っって会場をハシゴしたのも思い出ですが、WEB開催では好きな時間にゆっくり聴講でき、地方勤務や少数勤務、育児・介護中であっても年間で複数の学会への参加機会があることは大きな利点です。また、現地開催の質疑応答の一瞬の緊張感も忘れ難いですが、今回のように配信期間中に質疑応答に複数回フィードバックを頂けることも、新たな利点のように感じました。COVID-19の終息を願いつつ、学会においては今後もハイブリッド開催の流れが続けばいいな、と期待します。

4. 関連病院便り

鹿児島医療センター便り

西 元 謙 吾

現在の新型コロナウイルス禍での診療環境はどこも同じように厳しく、皆様も苦勞されていると思います。鹿児島医療センター耳鼻咽喉科における令和3年度の状況も大きな影響は受けていますが、昨年度に経験した新型コロナウイルスの大きな病棟内クラスターは幸運にもありませんでした。しかし、新型コロナウイルスの対応によるストレスは昨年度とほぼ同程度で例年と比べて手術症例でもコロナ禍以前と比べても回復には程遠い状況です。院内での新型コロナウイルス感染者はぼつぼつ出ていますし、診療した患者が新型コロナウイルス感染症であったことも珍しくはありません。その中でも大きなクラスターで診療・入院が極度に制限される状況には至っていないことは昨年度の苦い経験が生かされているのではと思います。

新型コロナウイルス対策で設置したクリーンパーテーションにもだいぶ慣れてきて、内視鏡検査や組織生検の処置の際 PPE で対応することも自然にできています。現時点では外来診療や病棟処置で感染を広げている事象はなく、一定の対応ができていると考えます。今後はひたすら新型コロナウイルス蔓延が収まることを願うのみです。外来で連携している先生方にも多大なご足労をおかけしていることに改めて御礼申し上げます。

当院で新しく入っている機器として鼻副鼻腔手術用の4K内視鏡がようやく入りました。いつものことながら国立病院機構という組織において新たな機器を導入することがかなり遅れるため鹿児島の他の手術を行っている施設では最も遅い導入となっていますが、今後は大いに活用して手術手技の向上に努めていきたいと思っています。ついでにイリゲーション用のインスタクリアもどさくさに紛れて導入できました。

スタッフとして今年度、最初の10か月は伊東小都子先生・安藤由実先生、最後の2か月は高木実先生・伊東小都子先生に鹿児島医療センターの耳鼻咽喉科診療を担っていただきました。昨年に引き続き先生方には歓迎会・送別会もなしで申し訳ありませんが、先生方の働きで無事に診療業務をこなしていただき感謝申し上げます。しかし、大学や他の施設との兼ね合いで来年度のスタッフは松崎・西元・高木の3人体制でスタートすることになりそうです。マンパワーが少なくなり、我々 Dr も高齢化していることから関連の先生方には多大なご迷惑をおかけすることもありますのでご容赦ください。

昨年度の手術件数はやはりコロナ前と比べると落ちています。今後は手術件数につきましては大学と統一して計算することとなっており、例年と違う印象となります。なか

なか見通しのきかない状況ですが、今年度も新型コロナウイルスに負けないように診療に臨みたいと考えていますのでよろしく願いいたします。

鹿児島市立病院便り

馬 越 瑞 夫

平素より大変お世話になっています。昨年まで担当していた高木先生が異動となったため、馬越より報告致します。

まず人事についてですが、昨年12月に宮永先生が宮崎大学へ異動となり、代わりに津曲先生が当科へ赴任されました。また今年2月に当院に永らく勤務されていた高木先生が鹿児島医療センターへ異動、代わりに鹿児島大学病院より久徳先生が赴任されました。とりあえず4人体制は維持となりました。平均年齢は若干若返り、今までとは違った意味での chain reaction を大いに期待するところです。

診療においては、今年度もコロナ禍の影響をもろに受けており、フェーズ4から緊急フェーズIに移行（鹿児島県の定める病床フェーズによる）となる度に、即応病床確保のため耳鼻科は他病棟での病床間借り、入院制限あり、通常手術・診療も制限される、なんとも心もとない状況が続いています。一方で full PPE にてコロナ患者の気管切開術を行うという経験もさせていただきました。早期の終息を願うばかりです。

鹿児島市立病院を今後ともよろしく願い申し上げます。

鹿児島厚生連病院便り

牧 瀬 高 穂

こんにちは。牧瀬です。2022年同門会誌さくらじま第36号。鹿児島厚生連病院に赴任して約3年が過ぎた今日このごろ、常に初陣をモットーに、気持ちで負けるなど日々過ごしております。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった一年でしたが、同門会並びに医局の皆様からのご支援のお陰で、鼻科手術を中心に年間約200件の手術を実施することができました。また、急性上気道感染症や突発性難聴などの入院加療が必要な患者さんも、常時入院しているような状況が続いております。ツインルームの4人使用くらい濃い毎日ですが、どうせやるなら、ウィリーするくらい勢いのあるローギアアクセル全開な診療を行いたい所存です。とは言うものの、休日のパパもしなければならず、今日も生きて帰ろうと安全第一で頑張っています。社会を見渡すと何かと不安定な時代

ですが、腹を割って話せる病院スタッフと力を合わせて、鹿児島の耳鼻咽喉科診療に貢献できるよう日々努力を重ねる決意をしたのでした。

いまきいれ総合病院だより

徳重豪士

いまきいれ総合病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科の徳重です。後期研修医として2021年度1年間勤務させて頂きました。

今年度の当院での手術は、内視鏡下鼻副鼻腔手術が166例と鼻科手術症例が豊富で、福田先生や積山先生に指導頂きながら私自身も執刀させて頂き、大変良い経験となりました。難治性の好酸球性副鼻腔炎に関してはデュピクセントによる術後加療も積極的に行っております。腫瘍性疾患についても良性腫瘍は89件、悪性腫瘍は24件と昨年度より症例数が増え、花牟禮先生を中心に咽頭喉頭食道摘出術など再建術を伴う形成外科と合同の手術も行っております。そのほかにも耳科手術を含め幅広い症例に対応しており、前年度と比較しても全体の手術件数は779件（例）から979件（例）と増加しております。

また、急性喉頭蓋炎や扁桃周囲膿瘍、深頸部膿瘍、腫瘍による気道緊急症例、顔面神経麻痺、突発性難聴など入院加療や緊急手術が必要な急性疾患についても多くの症例に対応しております。

経験豊富な素晴らしい先生方に指導頂きながら様々な症例を経験し、学会発表や初めての論文も投稿させて頂き大変充実した1年でした。まだまだ未熟ですがこの経験を糧にこれからも鹿児島の耳鼻咽喉科診療に貢献していきたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

霧島市立医師会医療センター便り

井内寛之

霧島市立医師会医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科の井内です。2022年1月から常勤医として勤務しています。鹿児島市以外で唯一の入院可能で手術できる施設として体制を整えています。外来は月曜日から金曜日の午前中（第1、3木曜日は鹿児島医療センターの松崎先生）で予約制になっています。もちろん、急を要する患者様は対応可能ですので、ご連絡ください。手術は毎週木曜日に2例しています。手術器具が徐々に整ってきており、2月末から本格的に始動しています。手術は内視鏡下鼻副鼻腔手術、

頸部良性腫瘍，口蓋扁桃摘出術，鼓室形成術Ⅰ型など主に良性疾患の手術をしています。幸いにも近隣の耳鼻科開業医の先生方から多数の手術症例の紹介いただき，手術待機は2ヶ月半程度です。

2022年4月からは原口めぐみ先生が赴任され，2人体制となります。少しでも地域医療に貢献できるように努めてまいります。今後とも霧島市立医師会医療センターをよろしく申し上げます。

天辰病院だより

原 口 めぐみ

2021年度は4月から6月が喜山敏志先生，7月から9月が松崎尚寛先生，10月から12月が喜山先生，1月から3月まで自身が勤務させていただきました。

当院は外来クリニックと入院施設を併設しており，外来診療に併せて，開業の先生方からご紹介いただいた患者様や，大学病院での治療前後の患者様の入院加療も行っております。同門の先生方におかれましては，日々ご相談やご協力に対しまして，大変感謝申し上げます。

当院に赴任した同時期よりオミクロン株が猛威を奮い始め，当院でもスタッフ及び検査機器がフル稼働し，爆発的に陽性者が増え続けていく様を目の当たりにしました。

入局以降，約2年間の大学病院での研修では経験することのなかった事態に苦慮するも，院長先生と外来スタッフ及び病院全体のスタッフと連携をとり，病院としての機能が停止しないよう試行錯誤を行いました。相談しやすい環境であり，スタッフの方々に大変感謝しております。

2022年度に入り4月からは宮本佑美先生が赴任されています。感染症も世界情勢も先行きが不透明な状況下ではありますが，今後とも先生方と連携して地域医療の一端を担えるよう精進して参りますので何卒宜しくお願い申し上げます。

XII. 関連病院

(令和4年6月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	890-8760	鹿児島市上荒田37-1 TEL:099-230-7000 FAX:099-230-7070	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
いまきいれ総合病院	890-0051	鹿児島市高麗町43-25 TEL:099-252-1090 FAX:099-203-9119	月~金 (8:30~11:30)	
霧島市立医師会 医療センター	899-5112	霧島市隼人町松永3320 TEL:0995-42-1171 FAX:0995-42-2158	月~金 (8:30~11:00)	
寺田病院	895-2513	伊佐市大口上町31-4 TEL:0995-22-1321 FAX:0995-22-2947	月・火・木・金 (9:00~17:00) 土 (9:00~12:00) 水曜日休診	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	水・金 (9:00~15:00)	
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~18:00) 土 (9:00~13:00)	
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	火・木 (14:00~17:00) 土 (9:00~12:30)	
加治木温泉病院	899-5241	始良市加治木町木田4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木・金 (10:00~16:30) 月・火・水 (9:00~17:30)	
種子島医療センター	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
出水郡医師会 広域医療センター	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
今村総合病院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221	火・木・土 (9:00~11:30)	
県立大島病院	894-0015	奄美市名瀬真名津町18-1 TEL:0997-52-3611	木 (10:00~17:00) 金 (8:30~15:00)	
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	月・水・木 (8:30~17:00) 土 (8:30~11:30)	火
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	毎週木曜日 (8:30~16:00)	
前原総合病院	899-2201	日置市東市来町湯田3614 TEL:099-274-2521 FAX:099-274-3306	月・火・水・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年7月1日 ～61年12月25日 平成元年6月26日 ～8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年9月6日 ～12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年1月22日 ～2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年5月7日 ～7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年6月25日 ～63年6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 濟霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年8月1日 ～10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年3月9日 ～3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年4月5日 ～平成元年6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phyathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phyathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkiao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成2年12月7日 ～3年12月21日 平成5年10月12日 ～10月17日	Department of Clinical Sciences (ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジャイ病院)	平成3年4月10日 ～9月7日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成4年5月17日 ～5年5月16日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成4年7月1日 ～9月26日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成5年8月3日 ～9月28日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National Universi ty 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成5年6月5日 ～6月8日 平成6年1月18日 ～3月1日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutklao 大 学)	平成6年3月11日 ～6月4日	Department of Otolaryngology Pramongkutklao College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成6年4月2日 ～4月19日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振 海	平成5年1月25日 ～平成9年3月31日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成6年4月4日 ～7年6月13日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成6年10月3日 ～11年3月31日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成8年1月25日 ～8年12月30日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年3月23日～H13.9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年4月2日～H17.3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月1日 ～H21年2月13日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)

氏 名	最終職別	在局期間
西 宜 行	研 修 生	59. 4 -59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4 -60. 6 61. 1 -61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4 -62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4 -63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63. 10-63. 12
三 角 芳 文	研 修 生	63. 10-63. 12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H 2. 7 -H 2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H 2. 10-H 2. 12
宮 原 広 典	研 修 生	H 3. 1 -H 3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H 5. 7 -H 5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H 5. 10-H 5. 12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H 5. 10-H 5. 12
的 場 康 平	研 修 生	H 7. 1 -H 7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H 7. 10-H 7. 12
泊 口 哲 也	研 修 生	H 8. 1 -H 8. 3
島 名 昭 彦	研 修 生	H 8. 7 -H 8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H 8. 10-H 8. 12 H 9. 4 -H 9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H 9. 1 -H 9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10. 4 -H10. 6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11. 1 -H11. 3
横 山 孝 二	研 修 生	H11. 4 -H11. 6

氏 名	最終職別	在局期間
田 中 裕 之	研 修 生	H11. 7 - H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13. 6 - H13. 12
森 田 喜 紀	研 修 生	H15. 1 - H15. 3

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

(総則)

- 第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。
- 第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

(目的ならびに事業)

- 第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 同門会総会の開催
 2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
 3. 記念事業の開催
 4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会則)

- 第5条 本会は会員を次のとおりとする。
教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。
- 第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）
- 第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。
- 第8条 会員は希望により退会することができる。
- 第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

(役員)

- 第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。
なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。名誉会長は原則として会長通算2期6年以上務めた者で、年齢70歳以上を推薦の必要条件とする。
- 第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。

- 第12条 役員改選時，（旧）役員会は（新）会長候補を決定し，総会での承認を経て新会長が選出される
- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し，会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し，会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し，会長がこれを委嘱する。
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し，会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。
（会議）
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。総会は総会員の過半数の出席をもって成立し，委任状提出者は出席とみなす。
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し，事業計画，経理その他重要な事項を審議する。
（会則の変更）
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て，変更することができる。

附記

本会則は平成22年1月17日より施行する。

本会則は令和4年（2022年）1月15日から施行実施する（第18条）

●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」

初夏の爽やかさと心地よさには心が躍ります。今年は、そのような初夏を思わず下菌知己先生と田中智規先生の二人が新たに入局してくれました。また、吉松誠芳先生も当教室の仲間に加わり晴れやかな雰囲気です教室を盛り上げてくれています。

本誌「さくらじま」は前号から表紙を誌名であるさくらじまの写真で飾っています。今回も昨年同様に当教室から見えるさくらじまを表紙にしました。クレーンで一部遮られた姿ではありますが、昨年と比較していただければ外来診療棟の建設進捗状況の違いを楽しめると思います。本誌が今後も末永く続いていくためにも、少しずつリニューアルしていけたらと思っております。本誌へのご希望やアイデア等あればご教示頂きますと幸いです。

同門会および地方部会の先生方におきましては、日頃より多大なるご支援いただき、本当に有難うございます。今後ともご支援のほど何卒よろしくお願い致します。

(文責：川島雅樹)

令和4年6月 さみだれの晴間に
編集長 (医局長) 川島雅樹
編集委員 喜山敏志
大夫堀昌子

さくらじま 第36号

令和4年7月7日 印刷
令和4年7月14日 発行

発 行 鹿 児 島 大 学 大 学 院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
電話 (099) 275-5410

印 刷 斯 文 堂 株 式 会 社
電話 (099) 268-8211

